

# 「那賀川水系河川水辺の国勢調査」について

## - 那賀川・桑野川にすむ陸上昆虫類等 -

那賀川・桑野川の環境状況を把握することを目的に、平成3年度より魚介類や鳥類、植物などの環境調査を行っています。平成16年度には陸上昆虫類等調査を行いました。

今回の陸上昆虫類等調査は、平成6年、平成11年につづき3回目です。

今回調査において1169種の陸上昆虫類等を確認しました。

\*これまでの調査結果(平成11年1050種、平成6年803種) [\(別紙 - \)](#)

外来種では、「ブタクサハムシ」、「ミスジキイロテントウ」が今回初めて確認され、それらを含む計23種の外来種を確認しました。 [\(別紙 - \)](#)

特定種として、5種の昆虫類を確認しました。 [\(別紙 - \)](#)

徳島県の絶滅のおそれのある野生生物(2001)で「絶滅危惧 類」に指定されている「サラサヤンマ」、「準絶滅危惧」に指定されている「ホンサナエ」、「オオアオミズギワゴミムシ」、昆虫類レッドリスト(平成12年4月12日公表(環境省))で「準絶滅危惧」に指定されている「シロヘリツチカメムシ」、「オモゴミズギワカメムシ」が確認されました。

今回初めて確認された特定種は、「ホンサナエ」、「シロヘリツチカメムシ」、「オモゴミズギワカメムシ」の3種でした。 [\(別紙 - \)](#)

那賀川事務所では、今回の調査結果をはじめ、既往調査の結果を基に環境に配慮した川づくり等に生かしていきます。

平成18年3月24日(金)  
国土交通省四国地方整備局  
那賀川河川事務所

### 問合せ先

国土交通省四国地方整備局 那賀川河川事務所

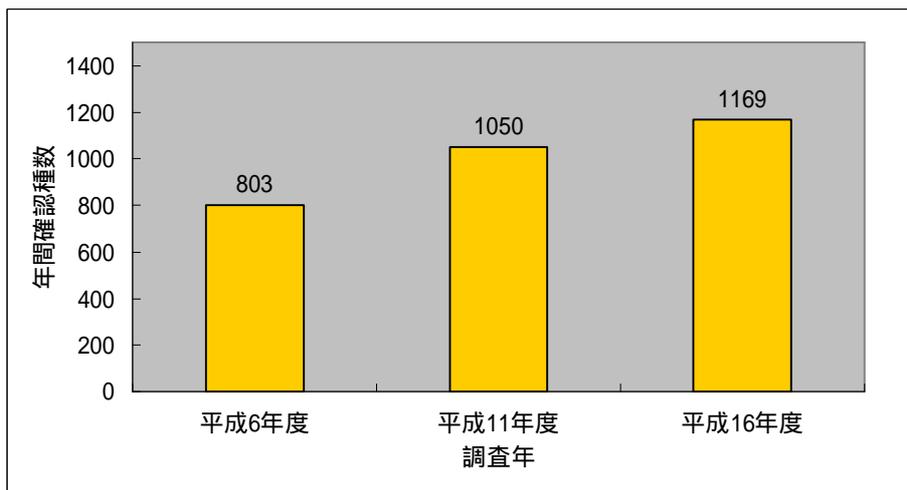
電話 (0884)22-6461

副所長 藤岡 康男 内線(204)

調査課長 鷲津 隆廣 内線(351)

<別紙 - > 河川水辺の国勢調査（陸上昆虫類等）における確認種数の経年変化

確認種の増加は、調査回を重ねるごとに、特に陸上昆虫類等の調査において一般に見られる傾向である。いくつかのグループでは、前回よりも分類研究が進んだことにより、今まで分類できなかった種が分けられるようになったことが種数の増加した一つの要因と考えられる。



確認種数経年変化図

外来種の確認状況

NO.	目名	科名	種名
1	ゴキブリ	ゴキブリ	クロゴキブリ
2	バッタ	コオロギ	アオマツムシ
3	カメムシ	ゲンバウムシ	アワダチソウゲンバイ
4	チョウ	イラガ	ヒロヘリアオイラガ
5	ハエ	ミズアブ	アメリカミズアブ
6		ハナアブ	ハイジマハナアブ
7	コウチュウ	カツオブシムシ	カドマルカツオブシムシ
8		シバンムシ	タバコシバンムシ
9		ナガシクイムシ	オオナガシクイ
10		テントウムシ	ミスジキイロテントウ
11		キシムシ	ウスバキスイ
12		ケシキスイ	クリイロデオキスイ
13		ネスイムシ	トビイロデオネスイ
14		コキノコムシ	チャイロコキノコムシ
15		ゴミムシダマシ	ガイマイゴミムシダマシ
16		カミキリムシ	ラミーカミキリ
17			キボシカミキリ
18		ハムシ	ブタクサハムシ
19		ゾウムシ	アルファルファタコゾウムシ
20			イネミズゾウムシ
21	オサゾウムシ	シバオサゾウムシ	
22	ハチ	ベッコウバチ	ツマアカベッコウ
23		ミツバチ	セイヨウミツバチ
	7目	21科	23種

<別紙 - >

特定種一覧表

No.	種名	確認地区および時期	区分	過去の記録
(今回の調査で確認された特定種)				
1	サラサヤンマ	大原:春季	絶滅危惧 類(徳島県) (徳島県 RDB p.164)	H11
2	ホンサナエ	大原:春季	準絶滅危惧(徳島県) (徳島県 RDB p.168)	今回初確認
3	シロヘリツチカメムシ	南岸堰:春季	準絶滅危惧(環境省)	今回初確認
4	オモゴミズギワカメムシ	南岸堰:夏季	準絶滅危惧(環境省)	今回初確認
5	オオアオミズギワゴミムシ	南岸堰:春季、夏季、秋季 大原:秋季	準絶滅危惧(徳島県) (徳島県 RDB p.172)	H11
(前回までに確認されている特定種のうち、今回の調査で確認されなかった種)				
(1)	マダラコガシラミズムシ	-	準絶滅危惧(環境省)	H11
(2)	ミヤマハンミョウ	-	準絶滅危惧(徳島県)	H6
(3)	ギンボシツツトビケラ	-	準絶滅危惧(環境省)	H6

～区分～ 絶滅危惧 類(徳島県):「徳島県の絶滅のおそれのある野生生物(2001)」絶滅危惧 類\*  
準絶滅危惧(徳島県):「徳島県の絶滅のおそれのある野生生物(2001)」準絶滅危惧\*\*  
準絶滅危惧(環境省):「昆虫類レッドリスト(平成12年4月12日公表)環境省」準絶滅危惧種

\* 絶滅危惧 類:絶滅の危機が増大している種

\*\* 準絶滅危惧:存続基盤が脆弱な種(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

表2 特定種の確認状況および評価

No.	種名	確認状況とその評価
1	<p>サラサヤンマ</p> 	<p>(確認状況)                      春季調査時に、大原において、川沿いの道路上を飛翔する1個体が確認された。</p> <p>(評価)                      確認場所は、山際から滲出水により形成された湿地であり、当該地域が生息場所である可能性が高い。湿地は道路沿いにあることから、今後、道路の拡幅工事などが実施された場合には、生息場所が影響を受ける可能性がある。</p>
2	<p>ホンサナエ</p> 	<p>(確認状況)                      春季調査時に、大原において、川沿いの石組み護岸、コンクリート堤上に静止する6個体が確認された。</p> <p>(評価)                      比較的個体数が多いこと、幼虫は河川の緩流部、淵などの泥底に生息することなどから、当該地域において発生していることが伺える。河川改修等によって河床が変化した場合には、本種の生息が影響を受ける可能性がある。</p>
3	<p>シロヘリツチカメムシ</p> 	<p>(確認状況)                      春季調査時に、南岸堰の高水敷(草地)において、成虫1個体が確認された。</p> <p>(評価)                      本種はカナビキソウに寄生して生活し、その生息数も少ないといわれている。カナビキソウは、イネ科の植物に寄生する半寄生植物であることから、南岸堰のようなイネ科植物からなる荒地においては、今後も本種が確認される可能性があると考えられる。</p>
4	<p>オモゴミズギワカメムシ</p> 	<p>(確認状況)                      夏季調査時に南岸堰の水際近くの水面から突き出た石上において、成虫1個体が確認された。</p> <p>(評価)                      徳島県内では、比較的標高の高い三好郡山城町の記録があり、南岸堰のような低標高地における確認は興味深い。成虫や幼虫は、水辺の岩盤上、水面から突き出た石上で見つかるものの、生息地は局所的であり、近接した地域で見つからないこともあり、生態は不明な点が多い。本種の生息地の保護および今後の生息状況を継続して確認することが望まれる。</p>
5	<p>オオアオミズギワゴミムシ</p> 	<p>(確認状況)                      南岸堰において、春季11個体、夏季4個体、秋季2個体、大原においては、秋季に5個体が確認された。確認個体の殆どは、ライトトラップに飛来したものであった。</p> <p>(評価)                      南岸堰では、3季を通して比較的多くの個体が確認されたことから、本地区が本種の生息地として良好な環境であることが伺える。本種は水辺の礫下に生息しているため、南岸堰地区の中州および左岸の砂礫地においては、今後も継続的に生息することが推察されるが、護岸工事などによって水辺の砂礫地が消失すると生息できなくなる。</p>